

日本ミュージアム・マネジメント学会 2019 年度事業計画

【1】会議の開催

名称	内 容	実 施 時 期
理事会 (年4回程度を予定)	第23回総会議事の確認、第23回大会運営等について	2019年5月11日
	総会議事の確認、大会運営について	2019年6月1日(総会、大会開催日)
	学会活動を推進するにあたって、検討を要する事項について	2019年10月20日、2020年2月1日
常任理事会 (隔月に開催予定)	学会活動の振興、活性化について課題の検討、ソリューションの促進	2019年7月、9月、11月、 2020年1月、3月
研究紀要 編集委員会	研究紀要の査読・審査・編集に関することについて	2019年7月、2020年2月
大会実行委員会	大会の企画及び実行、準備について	2019年5月11日、10月、2020年2月
学会賞選考委員会	学会賞選考に関する事項について	2020年3月
25周年記念 事業検討委員会	25年記念事業の内容についての検討	理事会等の日程とあわせて開催予定

【2】大会、総会の開催

名称	内 容	実 施 時 期
第24回総会	事業報告、会計決算報告等	2019年6月1日
第24回大会	エクスカージョン、特別講演、指定討論、会員研究発表、ポスターセッション等	2019年5月31日～6月2日

【3】研究部会の開催

研究部会	テ ー マ ・ 内 容 等
ミッション・ マネジメント 研究部会	<p>■活動テーマ：「多様な人々とミュージアム」 当学会は2018年度から2020年度の3年間は「人々とミュージアム」をテーマとし、社会を構成する人々の多様性に焦点を当て、ミュージアムを取り巻く人々とミュージアムとの関係性に関する研究活動と情報発信を展開していきます。 当研究部会では、多様なステークホルダーを意識し、人々との関係性の視点からミュージアムのマネジメントについて考察していきます。</p> <p>■研究会 ◎テーマ：「ミュージアムと評価」(仮) ◎日時：2019年11月24日(日) ◎場所：大阪市立自然史博物館</p> <p>■研究会 ◎テーマ：「ミュージアムと高齢社会」(仮) ◎日時：未定 ◎場所：氷見市立博物館</p>

<p>コミュニケーション・マネージメント研究部会</p>	<p>■活動テーマ:コミュニケーション・マネージメント研究部会ではミュージアムの全事業の基盤となっている調査研究活動を考える一年とする。当研究部会では、今までに「展示事業や教育普及事業」の観点から、各専門分野の展示と教育普及事業に関する実態を把握した上で、その課題提起や提言を行いながら、個別案件として、博学連携、社会教育機関同士の連携、多言語化対応、展示手法等の視点で研究部会を進めてきた。そしてその背景には研究員の調査研究活動が大きく起因していることは周知のことである。これらについて実態共有を図った上で、関係者間における議論の場とする。</p> <p>■第1回研究会 ◎テーマ:研究員の研究活動とミュージアム事業の将来ビジョンを考える ◎開催日時:2019年12月頃 ◎開催場所:科学技術館 ◎概要:言うまでも無く、ミュージアムが一般に公開している展示事業、講座観察会等教育普及事業は個々の研究員(学芸員)の日常的な調査研究活動の成果を体現しているものである。言い換えれば、これらの調査研究活動の基盤があつて初めてミュージアムの事業は成立しているわけである。しかし、昨今、ミュージアムの設置者側の課題として、財政危機等に伴う調査費等の削減をはじめ、成果発表の一つである展示事業経費の削減や研究紀要印刷費の削減があげられる。また、研究員側の課題として、高齢化に伴う中長期スパンによる研究計画が構築しにくいという事例も多々見受けられる。これらについて実態共有を図った上で、関係者間における議論の場とする。</p> <p>■第2回研究会 施設見学会:千葉県立中央博物館(予定) ◎日時:平成32年2月頃 ◎概要:第1回研究会で議論したことに関して、実際の博物館現場における調査研究活動とその成果還元としての諸事業について実態把握した上で、参加者間で議論する場とする。</p>
<p>コレクション・マネージメント研究部会</p>	<p>■活動テーマ: 【コレクション研究会】「特撮映像関連コレクションの保存・公開・展示の未来(仮題)」 現代日本を代表する文化としてサブカルチャーに社会的注目が集まり、その有力なジャンルの一つとして特撮(特殊撮影)映画をテーマとした展覧会が興隆している。とりわけ本年は「特撮の神様」と称された円谷英二の事績を紹介する円谷英二ミュージアムが開館し、さらに特撮文化に関する調査研究・資料収集の機関として特撮アーカイブセンターの建設が予定されている。 JMMA コレクション・マネージメント部会では2017年度に特撮映像アーカイブの保存について、2018年度にフィルムのデジタルアーカイブ化をテーマに研究会を開催してきた。そこで本年度は、上記のミュージアムを巡る社会的動向とこれまでの研究部会の流れを統合し、特撮映像関連コレクションを主題とし、その保存・公開・展示の未来について考えることを目的として開催することとしたい。</p> <p>【地域文化研究会】「世界遺産登録と博物館(仮題)」 世界文化遺産の登録を目指す百舌鳥・古市古墳群が所在する堺市において、仁徳天皇陵・堺市博物館などをめぐりながら、堺市博物館学芸員により「世界遺産登録と博物館(仮題)」についてお話いただく。また、周辺の博物館の見学も予定している。</p> <p>【コレクション研究会】 ◎日時:2019年冬頃を案として調整中 ◎場所:東京都内を中心に調整中 ◎講演・報告者:調整中</p>

	<p>◎概要: 上記テーマに基づき、フィルムのデジタルリマスター化について、また、特撮映像関係の造形物の収集・修復について現場の最前線に携わっている方々を講師として招聘する予定。会場参加者と共にその現状と課題について共に考える場としたい。</p> <p>【地域文化研究会】</p> <p>◎日時: 未定</p> <p>◎場所: 堺市博物館・仁徳天皇陵・周辺の博物館</p> <p>◎概要: 仁徳天皇陵や堺市博物館、周辺の博物館の見学、学芸員による解説・講演 ※現在、周辺の博物館等について堺市博物館学芸員と調整中</p>
--	---

【4】支部会の開催

支部会	テーマ・内容等
北海道支部会	<p>■活動テーマ: 地域の光＝宝＝資源を見出し、未来に伝えるミュージアムの役割を考える</p> <p>■ミュージアムマネジメント研修会</p> <p>2019年度は、9月9日(月)から10日(火)の3日間にわたって北海道伊達市で開催する「ICOM京都大会2019ポストカンファレンス in 北海道」(主催:ICOM京都大会2019組織委員会、伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム)に共催し、本事業の9日(月)にセッティングされている「国際シンポジウム“歴史文化をまもる、つなぐ地方博物館の挑戦”」(下記)に研修会を充てる。</p> <p>◎日時: 2019年9月9日(月)</p> <p>◎会場: だて歴史の杜カルチャーセッター大ホール</p> <p>◎内容: 基調講演</p> <p>Irene ZMUC (イリナ・ジュモツ)ICR委員長 Myriame MOREL-DELEDALLE (ミリアム・モレル・ドゥルダール)ICMAH委員長 特別講演 佐々木利和(北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授)</p> <p>パネルディスカッション「地域の宝をつなぐ博物館の役割」 モデレーター 石森秀三(北海道博物館協会会長、伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム委員長) Irene ZMUC (イリナ・ジュモツ)ICR委員長 Myriame MOREL-DELEDALLE (ミリアム・モレル・ドゥルダール)ICMAH委員長 佐々木利和(北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授) 石川直章(小樽市総合博物館館長) 坂本 昇(伊丹市昆虫館副館長)</p> <p>レセプション</p>
東北支部会	<p>■活動テーマ: 東日本大震災関連から8年を経て、各地で具体化されはじめたメモリアル関連の取り組みの事例調査、およびミュージアムの観点からの検討</p> <p>仙台を拠点とする『災害と展示の研究会』の活動に全面的に参加し、下記の活動を進める。</p> <p><『災害と展示の研究会』の趣旨></p> <p>東日本大震災を契機に被災地域のミュージアム関係者は「大規模災害について、ミュージアムは何をどのように伝えるべきか」という職業的課題を共有することとなった。本研究会は、この課題意識をふまえて、災害体験の語りや映像記録の公開、被災した文化財・生活財の展観、震災遺構の活用やメモリアル施設の造営など、“災害の表象”を市民の利用に供する多様な営みを「(災害)展示」という観点から横断的に捉え、地域や市民にとって有意義な災害伝承のあり方について下記のような調査・研究活動を行う。</p> <p>・災害と展示に関する調査研究及び資料収集</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会、研究発表会、講演会等の開催 ・災害に関する「展示」事業への提言 ・ミュージアム関連諸団体との連携 ・研究成果の公開・発信 <p>■勉強会</p> <p>◎日程 6月6日（木）（予定）</p> <p>◎話者：仙台市防災環境都市震災復興室担当者</p> <p>◎テーマ：仙台市中心部のメモリアル拠点の検討状況について</p> <p>※その他 2 回程度勉強会を実施予定</p>
<p>関東支部会</p>	<p>■活動テーマ1:「ミュージアムと訪日外国人(インバウンド)」</p> <p>・2018年に年間3000万人の大台を超えた訪日外国人は、今年のラグビーW杯や、来年の東京オリンピック・パラリンピック、さらには2025年の大阪万博等、国際的なイベントの開催も相俟って、さらに増える可能性が高いとみられ、その効果は大都市圏にとどまらず地方にも広がりを見せると期待されています。こうした中で、国内のミュージアムは、どのように対応すべきかについて、議論してまいりたいと考えます。</p> <p>■活動テーマ2:「指定管理者制度の新たな展開の可能性について（仮）」</p> <p>・指定管理者制度が導入されて15年あまりが経過し、その間に地方自治体を取り巻く環境は大きく変化してきています。人口減少時代が本格化する中で、現在は指定管理者が現れている業務も、先行きが懸念されるケースが増えるのではないかと考えられます。</p> <p>・こうした状況にあって、指定管理者側はどのようにこの問題に立ち向かうべきなのか、現場関係者の意見を交えディスカッションできればと思っています。</p> <p>■テーマ1に関する研究会</p> <p>◎登壇者:さいたま市大宮盆栽美術館の学芸員 石田留美子氏(予定)</p> <p>◎実施時期:2019年秋</p> <p>◎内容:盆栽は、BONSAIとして、今や世界で使われる言葉です。訪日外国人の中にも盆栽に興味がある方は多く、大宮盆栽美術館を訪れる外国人観光客も年々増えています。本美術館では、多言語対応は無理やり訳すのではなく、「やさしい日本語」を使う姿勢が大切と言う考えの元に業務を遂行してきました。昨年度より英語ボランティアの受け入れ開始し、今年度は観光庁から助成金を受け、「やさしい日本語」をベースとした多言語化にも取り組みます。盆栽を例にしつつ、訪日外国人が理解できる「やさしい日本語」の極意についてお話をお聞かせします。なお、会場は、盆栽美術館(JR宇都宮線「土呂駅」下車、徒歩5分)を予定しています。http://www.bonsai-art-museum.jp/ja/</p> <p>■テーマ2に関する研究会</p> <p>◎登壇者:調整中</p> <p>◎実施時期:2020年2月頃</p> <p>◎内容:地方自治体にとっては、人口の減少傾向が顕著になってきたことや地場産業の成長の伸び悩みが目立つ中で、税収の減少を食い止めることができないことにより、同一の業務内容であっても、これまでと同じ額のサービス購入料を支払うことが難しくなっています。</p> <p>一方、運営受託者側は、地方自治体の財政緊縮が徐々に顕著になる中で、収入の拡大があまり期待できないことから、これまで以上に効率的な運営を目指す必要に差し迫られています。やがては指定管理者が現れないケースも生まれてくる懸念があります(この場合、地方自治体は、その事業を止めるか、あるいは地方自治体の直営に戻すかの選択に迫られます)。</p> <p>こうした状況にあって、指定管理者側はどのようにこの問題に立ち向かうべきなのか、国内の成功事例と、そこに関わっている方のお話をお聞きするとともに、参加者とのディスカッションを予定しています。</p>

<p>中部支部会</p>	<p>■活動テーマ:2018、2019年の中部支部活動を検証すると共に今年度以降の方向性を探る。</p> <p>これまで2年間の活動を振り返って中部支部エリアの特性(広範囲で集結しにくい)を協議してきた。その上で研究会や見学会等立案、計画してきたが、さらに他の支部や本部開催の研究会との兼合いを図る必要がある。今年度は、より有効に支部会員の方々との交流と研鑽の場作りを協議していきたい。</p> <p>◎6月大会時:主な支部会員との意見交換 ◎9月～10月:今年度実施案の協議、意見聴衆 ◎12月～2月:実現可能な研究会や見学会、勉強会等の開催(予定)</p> <p>現在想定している開催案について、複数のエリアにて地域独自の小規模研究会等の実現を目標とすべきか、会員の意見を伺いたい。 北陸エリアにおいては新規施設のオープンやリニューアルが続いており、それらを題材に他の団体(NPO法人、各デザイン協会)との連携を探りたい。</p>
<p>近畿支部会</p>	<p>■活動テーマ:</p> <p>ここ数年、日本の博物館の状況は大きく変わってきている。博物館の制度や観光とのかかわりなど検討しなければならないことは多いが、それらは未だ十分ではない。そこで近畿支部では幾つかのテーマを取り上げ、研究会を設けてそれを議論する場を設けていくことにしたい。</p> <p>■第1回 研究会『観光と博物館—二条城と姫路城との比較から—(仮)』 二条城と姫路城との比較検討から観光と博物館、文化財の活用について検討する。また、京都に限らず小規模な寺院や博物館では文化財の活用だけでなく多言語対応などに苦慮しているところもでてきている。観光と文化財・博物館というのは対立するものではないが、現状は厳しい。 京都文化政策研究会と京都府で観光を担当している方と共に博物館が観光の時代に何をすべきなのかを考える機会にしたい。 ◎時期:2019年10月ないし11月</p> <p>■第2回 研究会(シンポジウムでの開催も検討中)『学芸員制度を考える(仮)』 国立科学博物館の所管が文化庁に移されたりするなど、博物館の制度そのものが大きく変わりつつある中、その専門職である「学芸員」の資格やその制度の在り様が議論されている。しかし、その議論も館の大小や館種の違いによってなかなか議論が深まっているとは言えない状況である。そこで「小規模館」という館の大きさを限定した上で「学芸員」の資格や養成上の問題点を話し合う機会を設け、今後の「学芸員制度」再構築への手がかりを考えていきたい。 ◎時期:2020年1月～3月の間</p> <p>※上記以外の研究会も計画されているが、現段階では未定。</p>
<p>中・四国支部会</p>	<p>■活動テーマ:佐田岬半島の優れた文化の継承と活用</p> <p>日本一細長い佐田岬半島はかつて水と交通の不便さから様々な个性的地域文化が形成されてきた。10数年前から一人の学芸員が伊方町職員となり町見郷土館を拠点に「佐田岬見つけ隊」を組織して、地域文化の掘り起しを行ってきた。しかしながら、高齢化の急速な進展で次々と集落は限界集落化してきている。様々な地域づくり活動も展開されてきているが、地域文化の評価と活用についての取組は弱い。中四国支部としては、地域づくり活動に取り組んでいる主な人々と研究会、フォーラムを現地で開催して「地域文化の評価と活用」について明示させていただき、地域の振興に貢献したい。 ①7月中に、現地打合せ研究会・現地視察会の開催を行う(10～15人規模)</p>

	②9 月中に、50 人規模でフォーラム「佐田岬半島の優れた文化の継承と活用」を開催する。 1泊2日で1日は現地視察。2日目はフォーラム。会場は瀬戸アグリピア。
九州支部会	■活動テーマ1:「博物館と医療・福祉のよりよい関係づくり」に向けた方策研究 ■活動テーマ2:現職学芸員・休職学芸員のリカレント教育の方策研究 ■テーマ1に関する研究会 ◎学芸員技術研修会 2019年6月～11月予定 ◎国際シンポジウム 2020年2月予定

【5】研究紀要および会報等の発行

事項	内容	実施時期
研究紀要発行	会員の研究成果の発表	2020年3月
会報発行	会員の研究及び実践活動の成果、ミュージアムの新しい動向、大会、研究部会・支部会の活動状況、などを掲載した会報を発行する	2019年9月(紙媒体、web媒体)、2020年3月(年3回発行)

【6】広報普及活動

事項	内容	実施時期
入会案内及び広報活動	学会のPR活動、研究部会・支部会の案内、新会員の勧誘等を推進する	随時

【7】会員交流事業

事項	内容	実施時期
ホームページ	ホームページ運営、メールインフォメーション対応	随時

【8】25周年事業

事項	内容	実施時期
25周年記念事業検討委員会	各地域でフォーラム開催 ①北海道地区 ②関西地区 ③九州地区	テーマ:今後のミュージアムのあり方について(仮) ①2019年夏～秋実施予定 ②2019年秋～冬実施予定 ③2020年春実施予定

【9】学会賞および大堀哲賞の選考・授与

学会賞の選考・授与	ミュージアム・マネージメント分野で多大な功績、成果をもたらした会員を委員会で選考し、顕彰 ⇒該当者なし	2019年6月
大堀哲賞の創設・授与	学会員に限らず、広くミュージアム界、ミュージアム・マネージメント関連領域に貢献した人、組織、団体、ボランティア、外国人研究者、漫画家、小説家等、JMMAに貢献した人(活動、社会的貢献等)や入会10年以内の学会員を対象とした奨励賞の創設。委員会で選考し、顕彰 ⇒該当者なし	2019年6月